

山梨県立巨摩高等学校校長 渡邊 圭一郎

学校目標・経営方針	高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組む生徒を育成する。
本年度の重点目標	1 自ら学び、自ら考える態度を育成する「巨摩スタイル」を実践し、確かな学力の育成と向上に努める。
	2 自主・自立の精神とコミュニケーション能力を培い、調和のとれた人格の育成に努める。
	3 個に応じた進路指導の充実を目指すとともに、部活動をはじめとする特別活動やボランティア活動のさらなる活性化を図る。
	4 生徒の一生懸命な取り組みを評価、支援し、誇りと感動をもって学校生活を営めるような指導に努める。

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価				学校評議員による評価				
本年度の重点目標			年度末評価(令和5年1月24日現在)		実施日(令和5年2月17日)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	生徒の確かな学力の育成と向上のため、「巨摩スタイル」の確立を目指す取り組みを強化する。	主体的・対話的で深い学びの実現と業務改善を目指したICTの活用を推進するため、ICT支援員のサポートのもとスキルアップに努める。 改めて「巨摩スタイル」の内容を精査・具体化し、全教職員の共通理解のもと授業を実践し、生徒の確かな学力の育成と向上を図る。 生徒の授業評価を適切にフィードバックし、授業力の向上を図るとともに、生徒の実態に合った授業改善を行う。 面談等を通して、家庭学習時間や学習方法について個に応じた指導助言を行う。	管理職授業参観票 相互授業参観票 学校評価アンケート 授業評価アンケート 授業評価アンケート 学習時間調査 スタディ・サポート	○主体的・対話的で深い学びを実践するための授業改善を行い、生徒の学力向上に努めた。 ○一人一台パソコンが導入され、ICT支援員のサポートを受け、パソコンを利用した授業に各教科で趣向をこらして取り組むことができた。	B	○各教科が観点別評価に向けて具体的な指導計画及び3観点の評価指標を改善する必要がある。また、生徒や保護者に対する説明責任といった面が今後の課題となる。 ○OPCの個々のスキルの差が激しく、対応に多くの時間が必要なケースが多い。情報を共有し、組織的に指導改善に努める。	3	○学力優秀者とそうでない生徒との差は必ず発生するものです。一人一人の学習到達度を把握し、全体のレベルアップを図っていただきたい。 ○OPCの活用時間及び活用頻度をあげて、スキルの差を埋めてほしい。
2	理数創造コースを中心とした理数科学活動を学校全体で推進し、課題を自ら発見できる生徒を育成する。	理数創造コースを中心に、キャリアビジョン支援事業となった地域交流事業を企画運営し、主体性とコミュニケーション能力の向上を図る。 地域に根差した交流事業とするために、全職員で企画運営に当たり、行事の成功につなげる。 総合的な探究の時間などを利用し、自ら課題を見つけさせ、その成果を学校内外に積極的に発信させる。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート 行事参加者アンケート 学校評価アンケート	○1、2年生は縦割り班を作成し、エネルギー研修、わくわくアカデミー、科学の甲子園に取り組み、自ら課題を発見し解決する力を身に付けた。 ○高大連携講座を年4回実施し、専門的分野について深く学んだ。 ○総合的な探究の時間では、プレゼンテーションやグループワークによる共働的な活動に意欲的に取り組んだ。	A	○自ら課題を見出す過程を大事にし、思考力・判断力を高める指導を継続していく。	4	○理数系人材の育成は、社会の要請課題であるとともに、進学の結果が学校評価を左右するものと思えます。育成過程の充実に加えて、結果・成果を求める指導をお願いいたします。 ○特色ある活動や成果を、より対外的にアピールして欲しい。
3	進路目標実現のため、教科・学年・分掌が協調しながら、一丸となって指導を推進する。	生徒一人一人が高い目標をもち、その実現に向けて切磋琢磨できる学習環境を整える。 生徒の自己肯定感を高められようような指導を行い、学校生活や進路の目標設定を適切に行えるよう指導する。 教師が率先垂範することで、生徒との人間関係を構築し、学校生活全般において適切な指導助言を行う。	授業評価アンケート 進路実績 学校評価アンケート 進路希望調査 学校評価アンケート	○生徒の進路目標の決定や達成に向けて、課外や土曜学習会、模試といった進路行事や日頃の二者懇談を通じて学習環境の整備を促すことができた。 ○文理選択という進路に関わる重要な判断をするにあたって、二者懇談はもちろんだが、二者懇談を丁寧に行い、一人一人の希望を確認し、個々の生徒の進路意識を高めることができた。	B	○進路目標に対しての知識が足りていない面が見られるので学年や担当が説明する場面を設定することがもう少し必要である。 ○上位層にもう少し挑戦する姿勢を育成できれば良かったと思う。しかしながら、地元志向、地元での進学に強いという今後の方向性のモデルケースにしていく。	3	○生徒の立場から見ると、先生から期待されるなど信頼関係を構築することが、新野などには大きく影響するものと思えます。引き続き、寄り添う指導をお願いいたします。 ○生徒の自己肯定感を高める指導が、自主性の育成に繋がります。適時適切なサポートをお願いいたします。 ○進路に対して生徒が積極的に動いていない傾向なので、学校から多くのアプローチが求められる。
4	部活動などの特別活動において、生徒が自己肯定感、充実感を持てるような指導を実践する。	部活動や学校行事に積極的に参加させることで様々な体験をさせ、充実感や達成感を得られるような活動を推進する。 ボランティア活動などに意欲的に参加させ、視野を広げるとともに調和のとれた人格の育成を図る。 メンタルヘルスケアや特別支援教育について、教職員の共通理解のもと相談体制の充実を図る。 部活動活性化と教職員の負担軽減のため、部活動外部指導者の活用等進めていく。	学校行事アンケート 学校評価アンケート 学校行事アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	○部活動における多くの大会が開催され、好成績をあげた部もあった。学校行事においても、生徒の意欲的かつ貴重な体験の場になった。 ○生徒の心の悩みに関して、各学年が家庭、他機関と連携し、要望に応じてスクールカウンセラー等の派遣要請を行い、組織的に対応することができた。また、1,2学年はQUアンケートを実施し、クラス内の人間関係把握の一助となった。	A	○健康問題を持つ生徒の一覧表を職員会議で報告して、配慮の必要な生徒について情報共有し、職員研修を適宜行う。 ○ボランティア活動に関しては、フードドライブや子ども食堂等地域の活動に意欲的に参加する生徒が増えている。さらに地域との繋がりを持つような活動を模索していく。	4	○生徒と学校の信頼関係がある中で、アンケート調査が実施され、今後に生かされることはよいと思う。データの取り扱いには特に注意をお願いしたい。 ○部活動への参加が積極的であり、自己肯定感の育成に役立っている一方、先生方の負担増には対応が必要。
5	本校の特色や活動の成果を、あらゆる機会を通じて地域に発信・紹介し、信頼される学校づくりに努める。	学校説明会やオープンスクール等で中学生に本校の良さをアピールするとともに、学校案内や巨摩高だより、HPを通して日頃の活動を広報する。 部活動を中心とした地域貢献事業を推進する。 地域や家庭と連携・協力し、防災教育・安全教育を実践する。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート 行事参加者アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	○2年間実施できなかった学校説明会やオープンスクールが実施でき、本校の特色や活動、良さ等について中学生や保護者にアピールできたことは非常に効果があったと感じている。 ○SDGsにおいて南アルプス市と協力してプロジェクトを行い、その模様をマスコミを通して発信した。	B	○各行事のアンケート結果の感触が良かったが、中学生による本校への進路希望に反映されなかった。今後、学校説明会やオープンスクールにおいて、部活体験の時間を組み込む等工夫していく。	3	○志願者数が低調なのは極めて残念な思いです。オープンスクールや部活動見学会などについて、夏季休業中に限らず中学と連携するなど工夫していただくことで、状況が好転することを期待します。 ○南アルプス市役所に対して、アイデアを提言するなど、目覚ましい物が見られた。今後も期待したい

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。
学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。